



このたびは、一酸化炭素検知機能付き火災警報器(以下、警報器という)をお買い上げいただきありがとうございます。ご使用になる前に、この取扱説明書を最後までお読みいただき、正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

CO反応式とは？
総務大臣により制定された特例基準に基づいた住宅用火災警報器です。
(特) =光電式住宅用火災警報器 (CO反応式) 特例基準マーク

火災警報器が一酸化炭素(CO)を約100ppm検知した場合、煙感度を通常設定より約2倍に高める機能です。

警報器の機能について

- 火災による煙を感じて音声で警報を発する機能や、住宅で発生する一酸化炭素(以下COという)を検知して音声で注意報を発する機能を持っていますが、火災の発生や住宅におけるCOの発生を未然に防止する装置ではありません。
- 火災やCOの発生などによる損害については、責任を負いかねますのでご了承ください。
- 換気扇などにより煙が吸引され、煙が一定濃度以上にならないときは、火災警報機能が働きます。
- CO検知部にCOが到達しないときは、CO注意報機能が働きます。
- 警報器を取り付けていない部屋は、火災の監視ができません。また、取付場所近くでのCOには注意報を発しますが、他の部屋で発生したCOには注意報を発しないことがあります。
- 消防法で定める住宅用火災警報器として設置できます。
- 消防法に規定された「自動火災報知設備」には代用できません。
- 熱中症おしらせは、警報器周囲の環境条件から熱中症注意の目安を示し体調管理などにお役立ていただくもので、熱中症を防止できるものではありません。
- 乾燥おしらせは、警報器周囲の環境条件から空気の乾燥をお知らせし健康管理などにお役立ていただくもので、乾燥によるインフルエンザなどを防止できるものではありません。



	新コスモス電機(株)サポートセンター	電話受付時間
お問い合わせ先	0120-621-250 または 03-6625-7056	9:00～17:00 平日のみ ※当社指定休業日を除く

1. 安全上のご注意

ご使用前に必ずお読みいただき、お客さまや他の人々への危害や損害を未然に防止するために、必ずお守りください。
注意事項は、誤った取り扱いによる危害や損害の程度を、以下の表示で区分しています。

危険 誤った取り扱いをすると「死亡または重傷を負う危険が切迫して生じる場合」が想定される」内容を示します。

警告 誤った取り扱いをすると「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容を示します。

注意 誤った取り扱いをすると「傷害を負う可能性および物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容を示します。

絵表示の内容
「一般的な禁止」事項を示しています。
「分解禁止」事項を示しています。
「水ぬれ禁止」事項を示しています。
「必ず行う」事項を示しています。

危険

火災警報音が鳴ったら、以下の内容を必ず守ってください。

必ず行う 火元を確認し、119 番へ通報するなどの適切な処置をしてください。

必ず行う 消火が不可能なときは、避難してください。

必ず行う

CO注意報音が鳴ったら、以下の内容を必ず守ってください。
CO濃度が上昇し、短時間で生命が危険な状態になるおそれがあります。

必ず行う 注意報音の鳴っている部屋にいるときは、すぐに換気をし、使用中の燃焼機器を止めてください。

※原因が特定できない場合は避難してください。

禁止 部屋の外にいるときは、すぐに入室しないでください。

警告

分解禁止 分解や改造はしないでください。故障の原因となります。

禁止 衝撃を与えないでください。故障の原因となります。

必ず行う

必ず行う 警報器の取り付け、取り外し、定期点検、異常時の点検・処置などを行うときは、安定した踏み台を使い、十分注意してください。

転落・転倒・落下によるケガのおそれがあります。

必ず行う

禁止 定期的(1ヶ月に1回程度)警報停止スイッチを操作して、警報器が正常に動作するか点検をしてください。また、1 週間以上留守にされたときは、警報器が正常に動作するか点検をしてください。

必ず行う

禁止 ライターの炎やタバコの煙などを使って、点検を行わないでください。火災や故障の原因となります。

注意

禁止 警報器の前に物を置いたり、取り付けたりしないでください。火災警報やCO注意報の遅れの原因となります。

禁止

禁止 取付ねじ1本で壁面に取り付けられている場合は、引きひもを使用しないでください。警報器が落下するおそれがあります。

禁止

禁止 警報器に耳を近づけて、警報音を聞かないでください。聴力障害などの原因になるおそれがあります。

必ず行う

必ず行う 設置後、10年(交換期限)を過ぎた警報器は、新しい警報器と取り替えてください。

必ず行う

必ず行う 警報器を水につけたり、水をかけたりしないでください。故障の原因となります。

必ず行う

必ず行う 引きひもを引いて火災警報音を停止するとき、および定期点検をするときは、強く引いたり、ぶら下がったりしないでください。

警報器の落下や、ひも切れまたはひもが外れるおそれがあります。

2. 各部のなまえとはたらき

- **スピーカー** 火災警報音やCO注意報音が鳴ります。
- **青(乾燥)LED** 動作の詳細は「13.熱中症/乾燥おしらせ機能」を参照ください。
- **黄(CO注意報)LED** COを検知すると点滅します。
- **赤(火災警報)LED** 火災警報時に点滅します。
- **煙感知部** 煙を感じます。火災などにより、警報器周囲の煙が一定濃度以上になると、それを感じて火災警報を発します。
- **警報停止スイッチ** 警報停止スイッチを操作すると火災警報音を停止させたり、定期点検を行うことができます。
★ 警報停止スイッチを押すことまたは、引きひもを引いて操作することをいいます。
- **CO検知部** COを検知します。警報器周囲のCOが規定濃度以上になるとCO注意報を発します。
- **引きひも取付部** 引きひもを取り付けることで、警報停止スイッチと同じ操作ができます。引きひもは付属されていませんので、お客さまで市販の引きひもをご購入ください。

引きひもについて

注意

引きひもを取り付けるとき、取付部が引かれて警報音が鳴ることがありますので、注意してください。

推奨ひも	市販の照明用スイッチひもなど (太さφ0.7～1.0mm程度)
------	------------------------------------

① 引きひもを本体に取り付ける前に、先端を伸ばし結びます。

② 結び目を引きひも取付部に引っ掛けて^①、引きひもを溝に通す^②。

確認

引きひもを取り付けた後は、数回引きひもを引き、正常に操作できることを必ず確認してください。

■LEDのつきかたについて
取扱説明書中のLEDの点滅は次のように動作します。

点滅	1秒おきに1回点滅	点滅周期
電池切れ点滅	10秒おきに1回点滅	点滅周期
故障点滅	10秒おきに3回点滅	点滅周期

3. 商品のご確認

梱包部品の種類と個数を確認してください。

警報器本体…1個	取付ねじ…2本
取付ベース…1個 (本体に取り付けられています。)	石膏ボード用 仮止めピン…1個
石膏ボードピン…5本(予備:1本)	専用リチウム 電池…1個
スタートガイド…1冊	取扱説明書(保証書付) …1冊

4. 警報器の取り付け

4-1 取り付ける前に

警報器本体から取付ベースを取り外す

本体を持ち、取付ベースを手のひらで押しながら、左(反時計回りに)回して、取付ベースを外してください。

手のひらで押しながら、左(反時計回りに)回して外す

おまけ

取付ベースを引っ張りながら回さないでください。
取り付け時の本体落下防止の安全ロック機構が働くため、取付ベースは外れません。

電源を入れる

注意

- コネクタの接続にドライバーなどを使用しないでください。コネクタが破損したり、専用リチウム電池がショートする原因になります。
- リード線の赤(+)と黒(-)の向きを間違えないように、確実に差し込んでください。
- 専用リチウム電池の外装フィルムは電池を保護するものです。はがさないでください。

① 電池のコネクタを、警報器裏面の端子に差し込み(電源投入)、電池を電池収納部にセットしてください。

② コネクタを端子に差し込み、電池を電池収納部にセットしてください。

② 「ピッ」と鳴り、約30秒間、黄(CO注意報)LEDが点滅した後、全てのLEDが点灯してから消灯し、「警報器正常です」とお知らせします。

ピッ 警報器正常です
全LED点灯
黄(CO注意報)LED点滅

警報器本体への設置年月の記入

本体底面の設置記入欄に、設置年月を油性ペンで記入する。

4-2 取付位置の確認

注意

正しい取付位置に取り付けてください。
取り付けてはいけない場所に取り付けると、火災警報およびCO注意報の遅れ、誤作動、故障の原因となります。
本警報器はガス機器の設置基準及び実務指針に記載されているガス警報器の設置場所には設置できません。

正しい取付場所について

※ 設置および維持基準については、政省令で定める基準に従い、市町村条例で定められています。各市町村によって設置場所が異なる場合がありますので、各市町村が定める火災予防条例を確認してください。

【設置例】

できるだけ部屋の中心 なるべく離す 照明機器

60cm以上 1.5m以上

たれ壁やはりから 60cm以上 20～30cm 以内 1.5m以上

換気口、エアコンなどの 空気の吹出口

● 警報器のスイッチが操作しやすく、LEDが見やすい位置に取り付けてください。

● 天井面に取り付ける場合は、壁やはりから60cm以上離れた位置に取り付けてください。

● 壁面に取り付ける場合は、警報器の底面が天井面下20cmから30cmまでの範囲にくるように取り付けてください。

● 換気口など、空気の吹出口から1.5m以上離してください。

● 壁面に取り付ける場合は、できるだけ張りたれ壁やはりから60cm以上離してください。

● 壁面に取り付ける場合は、できるだけ張りたれ壁やはりから60cm以上離してください。

取り付けてはいけない場所について

以下の場所には、絶対に警報器を取り付けないでください。

- 温度が0℃～+40℃の範囲をこえる場所。
- 浴室内、水のかかる場所、水滴がつく場所、結露する場所。感電や電氣的故障の原因になります。
- 屋外。
- カーテンウォールなどで仕切られた場所。
- 振動、衝撃の激しい場所。

● タンスなどから60cm以内の場所。

● 火災以外の煙や蒸気がかかる場所、車庫など。

4-3 取り付けかた

注意

- 取付位置の材質・強度を確認し、土壁や強度の弱い合板には取り付けないでください。
- 取付強度を保持するため、石膏ボードピンは根元まで差し込んでください。万一、ピンがゆるんだ場合は、取付位置をずらしてピンを付け直してください。

取付ベースの取り付け

■木質などの壁面に取り付ける場合 (取付ねじ2本で固定する)

- ① 取付ベース外周部の目印が壁面の目地などと平行になるように、取付ベースを図のように取付ねじ(2本)で壁面に仮締める。
- ② 取付ベースを左右に回転させて、取付角度を微調整する。
- ③ 取付ねじ(2本)を本締める。

両面テープによる取付禁止

目印

取付「上(UP)」を上向きにする

①仮締める

③本締める

刻印「本体側」が手前側になっていること

②微調整する

取付ベース

■石膏ボードの壁面に取り付ける場合

- ① 石膏ボード用仮止めピンを、仮止めに差し込んで仮止める。
- ② 取付ベースの目印が壁面の目地などと平行になるように、取付ベースを図のように石膏ボードピン(4本)で壁面に固定する。
- ③ 石膏ボード用仮止めピンを抜き取る。

両面テープによる取付禁止

目印

②

石膏ボードピン

刻印「上(UP)」を上向きにする

石膏ボード用仮止めピン

①仮止める

③抜き取る

②

取付ベース

刻印「本体側」が手前側になっていること

《確認》
取付ベースが、壁面に密着していることを確認してください。

■天井面に取り付ける場合

警告

石膏ボードの天井面に取り付ける場合は、引きひもは使用しないでください。
引きひもを強く引くと、本体が落下するおそれがあります。

注意

天井面に取り付ける場合は、石膏ボードピンを使用しないでください。

木質天井面や石膏ボードの天井面では、桟が通っている箇所に取り付けてください。

- ① 取付ベースの目印が天井の目地などと平行または垂直になるように、取付ベースを図のように取付ねじ(2本)で天井面に仮締める。
- ② 取付ベースを左右に回転させて、取付角度を微調整する。
- ③ 取付ねじ(2本)を本締める。

《確認》
取付ベースが、容易に脱落しないことを確認してください。

両面テープによる取付禁止

目印

刻印「本体側」が手前側になっていること

警報器スイッチ側

②微調整する

取付ねじ

①仮締める

③本締める

警報器の取り付けかた

- ① 取付ベースの刻印「スイッチ」と警報器のスイッチの位置を合わせる。
- ② 取付ベースの引っ掛け部の手前に、警報器裏面の突起(3箇所)を合わせる。

警報器の合わせ位置

引っ掛け部 (3箇所)

警報器裏面

突起 (3箇所)

取付ベース

※図は前から見えています。

取付ベース

引っ掛け部

突起

警報器

②

①

刻印「スイッチ」とスイッチ (警報器の前面) の位置を合わせる

おまけ

- 引きひもを使用する場合はP.3「引きひもについて」を参照ください。
- 警報器を取り付けた後で引きひもが引けることをご確認ください。

③ 本体を押し付けながら、右(時計回りに)回して固定する。

壁掛け取り付けの場合

天井取り付けの場合

